

多核種除去設備等処理水貯留タンクの 内面点検結果について

2020年2月6日

TEPCO

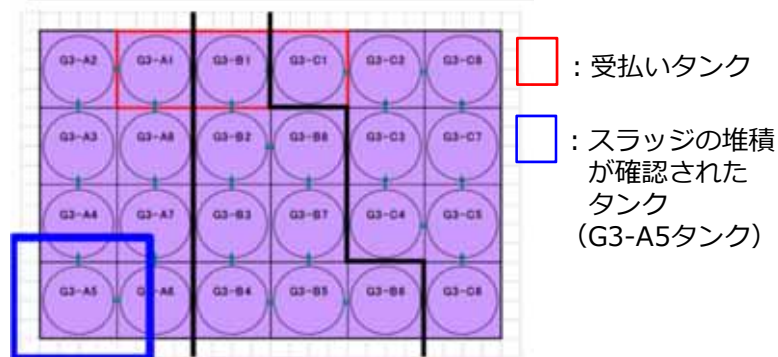
東京電力ホールディングス株式会社

福島第一原子力発電所 多核種除去設備等処理水貯留タンクの内面点検結果について

- 2018年10月に溶接型タンク（G3-E1）にて硫化水素を検出したことに伴い、ストロンチウム処理水（以下、Sr処理水）を貯留している溶接型タンク及び多核種除去設備等処理水（以下、ALPS処理水）を貯留している溶接型タンクについて、タンクの内面点検を進めています。

<2019年4月25日お知らせ済み>
 - 過去にRO濃縮塩水及びSr処理水を貯蔵した経歴があるALPS処理水タンクについては、水中ロボットによる内面点検の結果、スラッジの堆積により底面部的確認が出来ない状況であることを確認しました。

<2019年10月31日お知らせ済み>
 - 2月5日より、ALPS処理水を貯留している溶接型タンク※¹の内面点検（水中ロボット使用）を開始したところ、同日、G3東エリアA5タンク※²底部においてスラッジの堆積を確認しました。
 - 今後調査を進め、硫化水素発生や、タンクの健全性への影響等を確認してまいります。
 - 調査の結果については今後お知らせしていきます。
- ※ 1 RO濃縮塩水及びSr処理水を貯蔵した経歴はなし
 ※ 2 2013年度に受入れ（既設ALPSにて処理した水）



タンク配置図（G3東エリア（全24基））



【参考】同型タンク内面写真（水抜き後）



G3-A5タンク内面写真